

遠藤教育長	<p>これより平成 29 年第 3 回臨時教育委員会会議を開会する。本日は、私の他、4 人の委員が出席しているので、この会議は成立する。</p> <p>会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員は、会議規則第 14 条第 2 項の規定により、泉委員と西山委員とする。</p> <p>本日の会議の内容については、配布している会議日程のとおりだが、ご意見はあるか。</p> <p>意見がないので「日程第 1 協議」に入る。</p> <p>協議 1「平成 30 年度使用小学校教科用図書 特別の教科 道徳の採択」について、事務局より説明をお願いする。</p>
塩津指導課長	<p>協議 1 について説明する。</p> <p>本日は、平成 30 年度から小学校において教科となる「特別の教科 道徳」の教科書について、協議をお願いする。</p> <p>選定委員長が本日諸事情により欠席のため、選定委員長代理として泉委員に来ていただいている。それでは、選定委員会の報告を泉委員をお願いする。</p>
泉選定委員	<p>まず、道徳の教科書の調査結果について、研究員代表が説明する。</p>
梶尾研究員代表	<p>只今より、教科書研究会から「特別の教科 道徳」の調査研究結果の報告をする。</p> <p>まずは、教科書について説明する。教科書とは、学校で教科等を教える中心の教材として使われる児童生徒用の図書のことである。各学校で使用されている教科書は、関係法令及び学習指導要領等をもとに民間の教科書発行者が作成し、文部科学大臣の検定を受けた図書である。教科書は、教育の機会均等を保障し、全国的な教育水準の維持向上を図るため使用が義務付けられている。</p> <p>次に教科書の位置付けについてである。</p> <p>学習指導要領は、各学校が編成する教育課程の基準である。教科書は、この学習指導要領に示された教科・科目等に応じて作成されている。道徳では、来年度から道徳の教科化に伴い、授業では文部科学大臣の検定を受けた教科書を使用することとなった。</p> <p>道徳の時間については、これまでは授業で「私たちの道徳」などの副読本や教師自ら作成した教材が使用されてきた。来年度からは、第 1 学年から第 6 学年までが同じ発行者の教科書を使用す</p>

る。文部科学大臣の検定を受けた教科書の発行者は 8 社である。8 社の中から 1 社を採択し、来年度から教科書として使用することになる。教科書研究会では、この 8 社の教科書について調査研究を行い、本市において来年度から使用するのに最も適した教科書について提案する。

それでは、教科書の選定方法を説明する。教科書研究会では、法令に基づき、県教育委員会が作成した選定資料を参考にして、10 の観点を設定し、独自に調査研究を行った。その研究結果を基に、本日は調査研究結果報告をさせていただく。

資料で示しているのが、教科書選定での調査研究の 10 の観点である。ここでは、観点の内容を示している。この 10 の観点全てについて調査した。詳細については、選定意見書に記載されている。

それでは、教科書の調査研究を報告する。今回、私たち研究員が検討した教科書は 8 社である。スライドに示しているのは、第 1 学年の教科書の 8 社それぞれの表紙である。児童が「特別の教科道徳」をこの教科書で学んでみたいと思うよう、画像やイラストが効果的にレイアウトされている。

どの教科書でも結構なので何社かの教科書を見ていただきたい。各社の教科書の目次の例である。目次では、マークの分かりやすさ、発達段階や学校行事との関連を意識した内容項目の配列、教材と学習指導要領に示された内容の 4 つの視点との関連を色分けしたりマークで示したりするなどの工夫が見られる。また、道徳の時間の進め方については、今までの副読本には見られなかった一番大きな特長である。8 社全てにおいて、道徳の意義や学び方が丁寧に記載してある。各社、目次に続いて数ページを充ててあり、道徳の進め方がわかるような工夫がみられる。

8 社全ての教科書において、表紙や目次、道徳の進め方、学び方について、教育基本法及び学習指導要領の趣旨をしっかりとらえ、工夫、配慮がなされていた。この内容については、調査研究の観点 1「学習指導要領の目標を達成」に当たる。

では、本市の児童に最も適した教科書は何か。それを検討するためには、教科化の本質として、児童の学びに「考え、議論する姿が見えるか」「主体的に学習する姿が見えるか」という指導改善の視点が重要である。そこで、絞り込みの第 1 段階として、2 観点で教科書を比較し、8 社からしぼった。今回は、この第 1 段階で 4 社にしぼった。

次に、第 2 段階として、熊本市教育振興基本計画の具現化を図るため、基本理念や重点的取組と本市の全小学校の重点内容項目

から、最も適している教科書について比較した。重点内容項目とは、各小学校が児童の実態や保護者、地域、教職員の願いから、とても重要と考える内容項目をいう。つまり、各学年で 34、35 時間の授業時数の中に 2 時間以上は実施するものということになる。以上の 2 つの段階で選定を行う。

絞り込みの第 1 段階としては、2 つの観点で、全 8 社を比較していく。1 つ目は、「考え、議論する道徳」の実現という観点での比較である。本観点は、最も重要な観点であるため、第 1 段階、第 2 段階の 2 回にわたり確認する。具体的には、第 1 段階では、問題解決的な学習について、第 2 段階では発問と挿絵の工夫について比較する。2 つ目は、「主体的な学習態度の育成」の観点で、「自己の振り返りができる工夫」について比較する。

この 2 つの内容を、教科書選定で重視する観点 10 項目で見ると、問題解決的な学習への工夫に関する内容は、観点 3 に当たる。さらに、自己の振り返りができる工夫に関する内容は、観点 4 に当たる。以上、2 つの観点を、○、◎で全社を確認してみる。観点 3 「考え・議論する道徳」授業の実現に向けて効果的である「問題解決的な学習への工夫」について見てみる。

まず、東京書籍（以下、東書）である。教材の最初には何が問題なのかを投げかけ、教材では、考えるポイントを示し、最後には「考えるステップ」を示してある。工夫点は 2 つあるが、「考えるステップ」は、問題解決的な学習の手立てになっていないため○と判断する。観点 4 の「自己の振り返りができる工夫があるか」について見てみる。児童が心に残った教材や友達の考えを振り返ることで自分の成長を見取ることができる「学習の振り返り」がある。

これは、学習時間を考慮して年 3 回の振り返りの機会が設けられ、年間で 14 日分のコーナーが設定されている。しかし、毎時間の振り返りではなく、日々の積み重ねが十分に見えにくいいため○と判断する。

この後も各社 2 つの観点を確認していく。学校図書（以下、学図）をご覧いただきたい。観点 3 である。「活動」をご覧いただきたい。全学年の「読み物」に主題が書かれ、「活動」には、マークで活動の方法がわかりやすく示されている。しかし、主人公の心情を問う発問はあるが、課題を自分たちのこととして捉え、解決するような発問が最後に 1 つしかなく、問題についての自分の考えを話し合う場面の設定や記入する欄がないため○と判断する。

観点 4 である。「活動」は、内容項目ごとに構成され、考えるこ

とや問いかけをまとめた「発問」があり，そこに書き込んだり，自分を振り返って書いたりする欄が設けられている。しかし，全ての学年の内容項目ごとに振り返りができるコーナーがあるのではなく，それぞれの教材では，1 教材について 2 分の 1 ページしかスペースがなく，自己の生き方を振り返るための欄が十分には用意されているとは言えないので○と判断する。

教育出版（以下，教出）をご覧ください。観点 3 である。教材の初めに自分を振り返るような発問があり，問題意識をもって授業に取り組み，問題解決的な学習につなげることができるような工夫がみられる。次のページの「学びの手引」には，上段に教材の理解を深める発問，下段には問題解決的・体験的な学習へつながる発問が設けられている。更に，やってみようで体験的な活動につなげるような工夫がある。児童が 1 時間の授業の中でより体験的に学習を深めることができるため◎と判断する。

観点 4 である。巻頭に自分について書く欄と，巻末に一年間の道徳の学習で一番心に残ったことを記入する欄がある。また，「家の人から一言」「先生から一言」があり，家庭との連携ができるよう工夫されている。しかし，書く活動についての解説や設定はなく，毎時間の振り返りは，「まとめてみよう」「考えてみよう」という投げかけだけで，実際に毎時間振り返るための記入欄や手立てが無いので，○と判断する。

光村図書（以下，光村）をご覧ください。観点 3 である。教材の中にある「考えよう」には，問題解決的な問いがある。次のページには，解決につながるような教材が設けられている。しかし，教材文の中に主人公の行動や心情が詳しく書かれていて，児童が深く考える余地が少ない教材となっており，○と判断する。

観点 4 である。学習のまとめりに「学びの記録」が 4 箇所設けられており，道徳の時間に学んだことを振り返り，自分の心の成長を記入できる欄が設けられている。しかし，振り返りの欄が小さく，学習後に振り返った内容を十分に書くことができないので○と判断する。

日本文教出版（以下，日文）をご覧ください。観点 3 である。児童にとって身近な内容を取り上げ，教材の始めに問題解決的な学習に取り組めるような発問と，あらすじや主な登場人物が紹介されていて，児童がスムーズに学習活動に取り組めるような工夫が見られる。更に，教材の後にある「学習の手引き」を使って，問題解決的な学習へ具体的に取り組むことができるようになっている。また，中心場面において，児童が話し合ったり自分の

考えを書いたりする活動、友達の考えなどさまざまな立場から問題について考えるような工夫がある。このような一連の活動がより多く取り入れられており、児童は自分の考えを深めることが出来るようになる。よって、◎と判断する。

観点 4 である。日文の道徳ノートは、全ての教材に対応したページが同じ順序で設けられ、書きやすい配慮がある。また、毎時間、授業で自分をみつめ、振り返るための欄が設けられている。ワークシートと違い、一冊のノートになっているので児童が自らを振り返って自分の成長を実感できる。友達の考えを記入する欄は日文だけの工夫で、自己評価もできる欄が設けられている。年間 4 回保護者が記入できる欄もある。道徳ノートを通して児童が道徳授業で学んだことを保護者が知り、保護者と連携して児童の道徳性の育成を図ることができるため、◎と判断する。

光文書院（以下、光文）をご覧いただきたい。観点 3 である。全学年に問題解決的な学習として取り組むことができる教材が準備されている。児童にとって、日常起こりうる問題を教材として扱っており、日々の生活に生かせるものとなっている。教材の脚注部に考えるためのポイントや大切な見方がかかれており、登場人物の心情を問うだけでなく、児童の見方や考え方を問うものが多く、よく工夫されている。更に教材の後に、学習の内容を深めるように「とくに考えたいこと」も準備されており、◎と判断する。

観点 4 である。「この本の使い方」で、道徳ノートの書き方についての例がある。自分の道徳ノートに書いて、毎時間振り返ることに加えて、巻末にある自己評価シートには「学びの足跡」があり、発達段階に応じて全ての学習時間の後に振り返りができるような欄が設けられている。1年生の振り返りは、文字ではなく顔のマークを記入するようにしてある。高学年は、記入する欄としては小さいようであるが、学期ごとのまとまりで自分の成長を感じることができる。自分のノートと合わせれば、複数回、自分を振り返る機会が設けられることで、児童は、より主体的に学習に取り組む態度が育つと期待できるため◎と判断する。

学研教育みらい（以下、学研）をご覧いただきたい。観点 3 である。全学年、教材に続けて「深めよう」「広げよう」というページが設けられている。「深めよう」では問題解決的な学習、「広げよう」では教材に関連するさまざまな情報を知り、児童の視野を広げるような学習展開が示されている。しかし、低学年にとっては、活動数や発問数が多く、十分考えることができないため○と

判断する。

観点 4 である。「つなげよう」では、教材で学習したことを基に自分をみつめ、自分の生活や生き方につなげて考えるような振り返りの欄が数箇所ある。巻末には、学びの足跡が設けられているが、35 時間分の振り返りができる欄が設けられておらず、毎時間の振り返りができないため○と判断する。

廣済堂あかつき（以下、あかつき）をご覧いただきたい。観点 3 である。あかつきは、各教材の後ろに「学習の道すじ」が設けられ、「どのようにすれば解決できるだろう。」など、児童が考えたいくなるような問いかけがあり、問題解決的な学習を促す教材は設けられている。しかし、問題解決的な学習に向けての手立てなどが十分でないため○と判断する。

観点 4 である。あかつきは、道徳ノートがあり、毎時間、道徳授業で感じたことや考えたことを記入する欄が内容項目ごとにまとめて設けられている。自己を振り返って、自分の考えを比較したり成長を実感できるものとして、次学年以降も活用したりすることができる。また、保護者との連携を図り、児童の道徳性の育成につなげることができるため◎と判断する。

この結果、この 2 つの観点において、◎が 1 つ以上である教出、日文、光文、あかつきの 4 社については、本市の児童に必要な工夫や配慮が見られると判断できる。そこで、ここからは、更に熊本市教育振興基本計画の具現化を図るために、基本理念や重要的取組、本市の全小学校の重点内容項目から 4 社を比較する。

ここから、教科書選定第 2 段階に入る。第 2 段階は、熊本市教育振興基本計画と各小学校の重点内容項目の 2 つから、調査研究内容を判断した。

熊本市教育振興基本計画については、「徳・知・体の調和のとれた人づくり」という基本理念のもとに、重点的取組の一つとして、「いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応」が掲げている。そこで、「命」と「いじめ」がキーワードとなる。

平成 28 年度の本市の道徳教育について、「各学校の重点内容項目」を調査した。先ほども述べたが、重点内容項目とは、各小学校において重点的に授業を実施する内容項目ということになる。重点内容項目は、各学校において 2～4 つと、複数ある。「生命の尊さ」を重点内容項目としている学校が 95 校中 81 校と、最も多く設定されていた。そこで、第 2 段階としては、次の 3 つの内容で比較する。

1つ目である。熊本市教育振興基本計画の重点的取組のキーワードとして、「いのち」と「いじめ」が揚げられ、さらに、各小学校の重点内容項目として一番多い内容項目が「生命の尊さ」という点から、「生命の尊さについての取り扱いの工夫」について見ていく。

2つ目である。道徳の教科化のきっかけとなったいじめ問題は、熊本市教育振興基本計画の重点的取組でもある。そこで、「いじめ防止につながる教材の工夫」についても比較する。

更に、3つ目である。先ほど確認した「考え、議論する」道徳の実現について改めて同じ教材で4社を比較する。「特別の教科 道徳」の要であり、児童の道徳性を養うための授業「考え、議論する道徳」の実現はとても重要なことである。ここでは、授業において児童の考えを深めるために必要な「発問や挿絵の工夫」を高学年の共通の教材「手品師」を例に比較する。

これら、3つの内容を観点に当てはめると、「生命の尊さに関する取り扱いの工夫」は観点8、「いじめ防止につながる教材の工夫」は観点5、「主発問と挿絵の工夫」は観点3となる。

まず、最初に4社の「生命の尊さに関する取り扱いの工夫」について見ていく。

第1段階での調査結果と混同しないために、ここでは、調査結果を☆1つと☆2つで比較させていただく。それでは、教出、日文、光文、あかつきの4社の教科書をご準備いただきたい。

観点8の「生命の尊さにつながる教材の工夫」について比較する。教出をご覧ください。4年生に「動物たちの命を守る—熊本市動物愛護センターの挑戦—」が取り上げられ、動物の愛護活動を通して命の大切さを学べるよう工夫されている。しかし、5年生では「生命の尊さ」の内容項目の教材が1つ、6年生では2つしか設けてないため、☆1つと判断した。

日文をご覧ください。教材名の横に主題として「せいっぱい生きる」など、児童の心に響く言葉で表現され、児童が命について多様な感じ方ができるように工夫されている。全学年、生命の尊さの教材が複数設けられている。また、日文は、内容項目「生命の尊さ」の教材だけでなく、東日本大震災の教材を通して「勤労、公共の精神」について学んだ後、「心のベンチ」で災害が起きたときに、自分や他の人を守るためにどんなことが大切でしょうかなど、命について考える機会が設けられている。6年生の資料には、杉原千畝さんを扱った資料や日本とトルコとのつながりを教材にした「エルトゥール号」など、命について多角的に考

えることができる資料があり☆2つと判断した。

光文をご覧いただきたい。光文は、全ての学年において生命の尊さに関する教材を複数並べ、テーマを設け重点的に学べるように工夫されている。教材名の横に主題として「自分のいのち」などが掲載され、教材の内容に関連する投げかけがある。学年ごとの「生命の尊さ」のテーマは、児童の発達段階に即したものとなっており、児童が命について多様な捉え方ができる工夫がみられる。「いのちのまつり」は保健学習、「いただきます」は食育と関連させながら学習を進められるような工夫がみられ、☆2つと判断した。

あかつきをご覧いただきたい。同じように主題が設けられており、命についての多様な感じ方ができるように工夫されている。また、全学年において、複数の教材を設け、その中で 2 つ以上の教材を連続して学べるような工夫がみられる。3 年では、「たん生日おめでとう」「コラム：命を考える」「電池が切れるまで」の 3 つを連続して配置することで、指導内容の重点化が図られるように工夫されており☆2つと判断した。

次は、観点 5 の「いじめ防止につながる教材の工夫」について比較する。教出をご覧いただきたい。主題の後に、児童が問題意識を持って取り組める工夫がある。「いじめ防止」については善悪の判断や、友情、情報モラルなど多角的な見方から課題に迫るように配慮され、構成されている。しかし、「いじめ防止」について具体的に考えたり、さまざまな方策についての掲載がなかったりしたため☆1つと判断した。

日文をご覧いただきたい。日文では、いじめに関して全学年でユニット化されている。各教材の冒頭に、主題やあらすじ、登場人物が分かりやすく提示されている。また、ページをめくると「心のベンチ」には、教材の内容を更に広げたり深めたりするため、具体的な活動や方策が掲載されていて、道徳の教材と特別活動での話し合いから実践を問い、道徳的实践へつながるよう、よく工夫されている。いじめに関連する教材は、他にも多数取り上げられており、どの内容も児童の発達段階に応じたものになっていて、とても配慮されており☆2つと判断した。

光文をご覧いただきたい。光文では、主題の横に、いじめに対して問題意識を持って取り組める工夫がある。いじめ対応教材は、実際にクラスで起こるような児童に身近な問題が取り上げてある。この教材は、いじめの原因や「いじめがどうして起こるのか」を学習した後、いじめにあったときの対処法が具体的に書かれて

いる。いじめに関連した本も紹介してある。しかし、「いじめ防止」として、教材の内容を更に広げたり、深めたりする具体的な活動や方策がないため、☆1つと判断した。

あかつきをご覧いただきたい。「いじめ防止」については善悪の判断や、友情、情報モラルなど多角的な見方から課題を考えるように構成されている。「学習の道すじ」には、いじめに関連した本を紹介してある。しかし、「いじめ防止」について具体的に考えたり、さまざまな方策についての掲載がなかったりするため☆1つと判断した。

最後に、観点 3 の「主発問と挿絵の工夫」について比較する。まずは、4社の教科書をお開きいただきたい。教材は、高学年の教材「手品師」である。この教材は、全社に掲載されており、道徳の授業の資料として長く使われているものである。内容項目は「正直、誠実」である。

では、教出をご覧いただきたい。主人公が電話をかけている表情で悩みを表現し、中心発問の挿絵は、主人公が迷っている様子が分かるように描いてある。教材ごとに設けられている「学習の手引き」には、「誠実に生きるとは、どのようなことでしょうか」などの問いがある。しかし、これだけの発問では、自己の生き方についての考えを深める学習にはならないため、☆1つと判断した。

次は、日文をご覧いただきたい。主発問に当たる主人公の葛藤場面の挿絵がある。主人公の迷いが分かりやすく挿絵に表されているので、児童は主人公の気持ちを理解しやすいと思われる。また、次のページにある「学習の手引き」には、同じ挿絵があり、この場面を基に2つの立場に立って役割演技を行うことを通して、道徳的価値の理解を深めることができるように、よく工夫されている。「この学習を通して、どんな生き方が大切だと思ったかな」という発問は、児童の自己の生き方についての考えを深める学習につながるものと考え☆2つと判断した。

次は、光文をご覧いただきたい。光文の中心発問で考えさせるときの挿絵は、主人公が迷っている様子がよく分かるように描いてある。問いは、『友人』から電話をもらって、手品師が悩んだのは、どんなことだったのかな。」「手品師はなぜ大劇場に出られるチャンスを断ったのかな。」「『誠実に生きる』とは、どういうことだと思いますか」など、多数設けられている。しかし、多くの発問があるため焦点を絞って深く考えることができなくなるため☆1つと判断した。

あかつきをご覧いただきたい。主人公が電話をかけている後ろ

	<p>姿で悩みを表現しているが、挿絵がやや小さいため、何を悩んでいるのかが児童には分かりにくいと思われる。教材の最後に「学習の道すじ」には本時のめあてと、教材に関わる問いが 2 つ、自分の生活に関わる問いが 2 つあり、ノートにも「誠実に生きるとは、どうして大切なのでしょう。」という問いがある。しかし、児童の自己の生き方について考えを深める発問がなく、学習の道筋にある問いとノートの問いが少しずつ違い、児童にとっては考えが焦点化できないため、☆1 つと判断する。</p> <p>4 社を 3 観点で比較すると全ての項目で☆2 つであったのは、日文だけだった。</p> <p>以上、4 つの観点で確認した。8 社全てに、工夫と配慮が数多く見られる。本市の児童が、「手にとって開いてみたくなるような教科書」という点においては、日文がより多くの工夫があると判断した。今回、紹介はしていないが、日文の 6 年の教材「天下の名城をよみがえらせる一姫路城」は、太平洋戦争を経て、ぼろぼろになった姫路城を、地元の人が苦勞しながら立て直した内容である。本市も、震災により被災した熊本城が、現在、復旧作業に入っている。本市の児童がこの教材に出会ったときに、きっと「熊本城」のことを考え、自分とのかかわりとしてしっかりと捉え、郷土の伝統や文化を受け継ぎ発展させていく責務があることを自覚し、努めていこうとする心構えを育てることができると思う。このようなことから、日文が本市の児童にとって最も適している教科書であると報告する。</p>
泉選定委員	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を、事務局が説明する。
松島審議員	<p>展示会は 6 月 16 日から 6 月 29 日まで市内 9 カ所で開催された。ご意見等を一般・学校といただいたので、一部を紹介する。</p> <p>全体では、学校から 38 点、一般から 16 点あった。</p> <p>学校からは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの教科書も、今までの道徳の副読本のような感じで、使いやすそうだった。 ・教科化に向けて、初の教科書となるべく、どこの教科書も様々な工夫が感じられた。 <p>一般からは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳が教科となり、副読本から教科書になった。内容に各社工夫を凝らし充実していたが、現実の指導では各自の評価はどうさ

れるのか。考えたことを書く等のページもあり、文章のうまい子、頭のよい子がよい評価をうけるような気がした。また、価値観の押し付けにならないかという心配もある。児童の悩みを受け止め、共に解決していくような利用を期待する。

・道徳教科書を拝見したが、厚くて重そうに思う。今、子供が持っている本の 2 倍ぐらいあって、子供がかawaiiそう。ノートがある本はばらばらになりそうな気がする。

東書は、学校から 43 点、一般から 6 点あった。

学校からは、

・今学習している内容のものもあり、見慣れている。
・資料名の横に、その資料で学ぶ価値を分かりやすい言葉で書いてあるところがよかった。

一般からは、

・挿し絵が大きく、よかった。
・「平和」問題を積極的に取り上げている。

学図は学校から 41 点、一般から 3 点あった。

学校からは、

・読み物と活動が分かれていて、適切な活動内容が選定されていていい。自由に選ぶ選択肢があって使いやすい。
・道徳の学習を始める前にどんな思いで授業にのぞむのか、意欲付けとなるページが最初にあっている。

一般からは、

・「かつどう」と「よみもの」が分かれているのは使いづらい。
・教材の前に「主題」が書かれているのがよい。分かりやすい。教材に「発問」が付けられていない。これまでの副読本とあまり変わらず、残念。もっと様々な教材がほしかった。

教出は、学校から 40 点、一般から 8 点あった。

学校からは、

・何も書いていない吹き出し等、児童に考えさせやすい工夫があった。
・学びの手引きの欄があり、ポイントを捉えた発問が分かりやすく提示してあった。
・イラスト、写真が見やすいものだった。

一般からは、

・目次に 4 つの心がのっているのがとても分かりやすくてよいと

思った。

- ・挿し絵や表紙の絵がきれい。

光村は、学校から 59 点、一般から 10 点あった。

学校からは、

・巻末に「現代的な課題との関わり」「他教科・領域との関わり」が書いてあり分かりやすい。

- ・カラーの感じが見やすい。子供が入り込みやすい。

一般からは、

・学期ごとに学ぶ順で資料があり、よかった。巻頭に各学年ごとの道徳への心構えが載っており、よかった。

・「人権」「平和」「共生」を中心にすえた読み物だった。一人の人間として成長していく、その礎をきちんと押さえてあった。

日文は、学校から 41 点、一般から 7 点あった。

学校からは、

・ワークシートと教科書がセットになっているので、児童の考えの変容などが分かり、ポートフォリオのように活用できてよいと思った。

・教科書の写真がとてもきれい。道徳ノートは、単元別に発問が 2～3 構成されており、書き込みがしやすい。

一般からは、

- ・充実している。
- ・「平和」問題を積極的に取り上げている。

光文は、学校から 66 点、一般から 7 点あった。

学校からは、

・題材名の横に学習のめあてが書かれていて、児童が課題を把握しやすいように工夫してある。

・本文の下に補助発問があり、使いやすい。また、主発問が最後にあるのでよいと思う。資料に入る前のねらいの持たせ方も書いてあり、よい。

一般からは、

- ・挿し絵や表紙の絵がきれい。
- ・充実している。

学研は、学校から 43 点、一般から 6 点あった。

学校からは、

泉選定委員	<ul style="list-style-type: none">・学研は、特に分かりやすいものに仕上がっていた。4 領域を「わたしのこと」「あなたとわたし」「しゃかいとわたし」「いのちやしぜんとわたし」と表されており、1 年生の児童も分かりやすく工夫されていた。・ネットのトラブルの話など、現代の問題に沿って教材が作成されており、分かり易かった。 <p>一般からは、</p> <ul style="list-style-type: none">・大きくて重いと思う。・サイズが大きい。内容項目などのメモはシンプル。 <p>あかつきは、学校から 56 点、一般からは 4 点あった。</p> <p>学校からは、</p> <ul style="list-style-type: none">・道徳の本とノートがセットになっていて、自分の考えを残していけるのがよい。また、「今まで教えていてよかったな」と思う内容が、たくさん載っていた。・別冊でノートがついており活用しやすそうである。 <p>一般からは、</p> <ul style="list-style-type: none">・以前から使われていた題材が、多く取り入れてあり、いいと思う。ノートもあるので使いやすしいし、記録に残しやすい。1 年の初めのところは、実態に合っている。・資料がこれまでの内容と同じものが多く、活用しやすそう。 <p>以上、展示会でのご意見等の紹介である。</p> <p>ただいまの報告を受けて、選定委員会にて協議を行った。</p> <p>まず、特別の教科道徳の目標を確認しておく。</p> <p>目標は、「学習指導要領第 1 章総則の第 1 の 2 の (2) に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての行き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」となっている。</p> <p>全 8 社とも、学習指導要領の目標及び内容に従い、それぞれに工夫された内容構成となっていた。</p> <p>すべての教科書に様々な工夫が見られたが、代表的な 2 社について述べる。</p> <p>光文書院の教科書に関しては、主に以下の 2 点が報告されている。</p>
-------	--

	<p>1 点目は、全学年脚注部に考えるためのポイントや大切な見方が書いてあり、心情を問うだけでなく、児童の見方・考え方を問うものが多く、よく工夫されているということである。2 点目は、いじめ対応教材は、実際に起こるような児童たちの実態と重ねて考えられるよう、よく工夫されているということである。</p> <p>次に、日本文教出版に関しては、以下の 3 点が工夫されていると報告がなされた。</p> <p>1 点目は、道徳ノートにおいて教科書と配列や問いがそろえてあり、学びやすいよう配慮されている。また、全ページに友達の考えを書く欄を設けてあり、多様な考えに触れ、自分の考えと比較して学ぶことができ、多面的・多角的に考えるようによく工夫されているということである。</p> <p>2 点目は、教材の最後には中心発問と、児童が生活の中に学習したことを生かすためのヒントが書いてあり、学習した内容を焦点化し、主体的に学習に取り組みやすいようにとても配慮されている。</p> <p>3 点目は、いじめ問題への対応に関する教材が「心のベンチ」の中にコラムとして掲載されている。道徳の教材と特別活動での話し合いから実践を問うものになっていて、道徳的实践につなげていけるようよく工夫されている。</p> <p>以上、調査研究員の報告をもとに選定委員会で審議した。その結果、総合的に判断して、日本文教出版の教科書が本市の児童が使用する教科書として最適であるとの結論に達した。報告は以上である。</p>
遠藤教育長	<p>それでは、協議に入る。ただいまの報告についてご意見、ご質問があったら、願います。</p>
西山委員	<p>道徳の教科は道徳の専門家が教えるというわけではない。いろんな専門の先生が教えられるわけで、特に道徳に詳しくない先生でも教えやすい教科書がのぞましいと考える。そういう観点からはどうか。</p>
梶尾研究員代表	<p>道徳を特に研究している教師も、そうでない新任の教師も、みんなが分かりやすいようにと努めて授業を行っている。現在は学級担任が行っているが、やはり教師にとっても教えやすいもの、例えば主題が明確であるもの、発問が絞り込まれていて児童の考えを深めることができるもの、児童にとっては挿し絵や内容が分か</p>

	<p>りやすく、考えを深められるものが大切だと考える。そのような点で、日本文教出版は、主題の前に考えるポイント、分かりやすい挿し絵、絞り込まれた発問がある。最後に自分の考えを振り返るノートがあり、非常にまとまっている。どの先生にとっても、授業がやりやすいのではないかと考える。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>年間 35 時間分あり、1 時間の中で児童がどれだけの内容を理解できるのかという観点から見たときに、まず大事なことは、その 1 時間の中で自分の意見を述べること、そして友達の違った意見に触れるということが大事だと思う。それだけでも相当な時間がかかると思う。それに加えて、記述する時間はとれるのだろうか。確かに記録することは大切だが、1 時間の中に記述する時間も盛り込めるのだろうか。その視点からはどうか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>今回の改訂では、読み物道徳から考える道徳への転換が求められている。児童にとって、この資料から何を考えていくのかはとても大事なことである。</p> <p>資料についての発問を精選し、児童が価値について考え、議論する時間を確保することがとても大切になってくる。児童が考えをより確かなものにするために、まずは自分の考えを書いて整理するという活動が考えられる。傾向を見ると、主発問のところで 3～5 分の書く時間を取る授業者が多く、その後、友達の様々な考えに触れる。最後に、振り返りを行うが、これまでの自分とこれからの自分について考えることに 5 分程度をかけることが多く、これらの時間をしっかり確保するためには、教材の理解に時間をかけるのではなく、ねらいに迫るための思考に時間をかけることが大切である。</p> <p>低学年で授業の途中に書くことを取り入れるのは難しいが、自分のことを振り返って考え、記録することで、自分自身で成長を感じることができる。それはまた、保護者や教師が、児童の道徳的価値についての成長を感じる一端になると思う。書くことが苦手なお子さんには、それぞれの手立てをとっていくが、1 年間の中で、例えば 4 月の段階と 11 月の段階、1 学期と 2 学期等、大きく成長していくので、個人内評価という意味でも、書くということは大事なことだと考える。</p>
<p>西山委員</p>	<p>ノートがあることでメリット、デメリットがあると考え。それらを考慮して選ばれたと思うが、もう少し詳しく説明をお願い</p>

<p>梶尾研究員代表</p>	<p>する。</p> <p>ノートがあるということで、教師自身も書く活動を意識することができる。それに、児童が授業に入る前に、自分自身を振り返って授業に臨むことができる。そして、児童のノートの記述を手がかりに、教師自身が自分の授業を振り返ることができ、授業で足りなかった点等を評価することにもつながると考える。</p> <p>ノートがあることのデメリットは、様式が決まっておき、マニュアル化してしまうこと、書くことが苦手な子に負担感があるということ、教師が型にはまってしまったりやりにくい等が考えられる。これへの対応としては、教師自身がワークシートを作成し、ノートに貼るといったような、柔軟な対応を行うとよい。</p>
<p>宮本指導主事</p>	<p>メリットという点で、ノートを見ることで児童理解が深まっていくと考える。児童を理解することは、児童のよさや成長をより深く見ることができ、児童を認め、励ますことにもつながると考える。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>教科書展示会の意見で、学校からの日文に関する意見・感想が、ほぼノートに関するものだった。教材に関する意見がなかったがその点はどうか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>日文は、ノートがあるということで話題になったのは間違いはないが、教材も非常によいものがたくさんある。発問のよさがノートに反映されており、教材の理解が十分できるような発問が設定されていると思う。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>それを、先生方がしっかりと理解して授業を行っていくことが大切だと思う。</p>
<p>森委員</p>	<p>手品師という同じ教材での比較は、各社の特徴がよく分かった。高学年における比較だったので、低学年で比較することは可能か。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>調査研究で、1年生の「はしの上のおおかみ」で比較している。4社で比較する。内容項目は親切・思いやりである。</p> <p>教育出版では、はじめに、導入の発問が明示されている。挿絵は紙芝居ができるように、場面ごとに丁寧に描かれており、文章はやや長く 5 ページある。この中心場面の挿絵から、しっかり</p>

	<p>とおおかみの心情を考えることができる。「学びのてびき」の「ジャンプ」には、役割演技にもふれてあり充実している。発問数は多く、読解のみに終わらないように気をつける必要がある。</p> <p>次に日文である。短く分かりやすい文章で、挿絵と文章がほぼ一致しており、低学年への配慮がみられる。後ろの学習の手引きには 6 年生の例と同じように、中心場面の挿絵があるため、児童の思考がスムーズに流れると考えられる。教材の始めには親切・思いやりという道徳的価値をしっかりと考える投げかけがあり、主発問とノートの間い、そして挿絵が一致しているため、しっかりと考え書く活動、役割演技につなげて体験的に実感できるように考えてある。はじめの問い「親切ってどうして大切なのでしょう」と、終末の問い「親切にするとどんな気持ちになるのかな」を考えることで、道徳的価値に迫ることができる。</p> <p>次に光文である。挿絵が大きく、本文は簡潔になっている。挿絵の中に本文が書かれているため、このままだと板書に活用しにくい面がある。導入での発問がある、脚注部にも発問やヒントがある。おおかみの心情を問う発問が多く、自分自身との関わりを問う発問がやや少ないと感じる。「まとめましょう」「伝えましょう」とあるが、これは低学年にはやや難しく、授業では理解しやすいように細やかな支援が必要かと考える。</p> <p>最後にあかつきである。挿し絵と本文が合っているので分かりやすい。中心場面の絵がやや小さい。発問は教材の最後に 2 つ、ノートに 1 つある。ノートには自分との関わりについて書くようになっているが、児童にとっては、教科書の発問とノートの発問のつながりを意識するには難しいと考える。</p>
西山委員	<p>障害のある方と共に生きるという観点の教材が少ない。特に、知的障害の方と共に生きるという教材はないように感じるが、この点はいかがか。</p>
梶尾研究員代表	<p>これまで、聴覚障害や視覚障害、外国人、高齢者の教材は取り上げてあったが、今回、知的障害に関する教材はないようだ。今後の課題になるかと思う。</p>
西山委員	<p>昨今の悲惨な事件があり、そのようなことが二度と起きないように、教えていかなければならない。このような教材がないのは残念である。学校で、何とか対応していただければと思う。</p>

<p>泉委員</p>	<p>道徳の授業の中でいじめの問題を取り上げることは必ず必要だ と思う。いじめの題材という観点から、もう一度、日文と光文の 比較をお願いします。どちらもよく工夫がなされており、身近な題 材を扱ってあるが、2つの違いを教えていただければと思う。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>日文はユニットになっていて、非常にはっきりと示されている。 もう一つは、ユニットの後ろにあるコラムに、発達段階に応じた 対応がなされている。特に6年生では、「仲裁者」という言葉があ る。これまで、いじめをする側、受ける側、傍観者までは指導し てきたが、いじめを止める仲裁者の立場が必要だと書かれている。 いじめはいけない、見ているだけではダメだということは今まで もあるが、ではどうすればいいのかという点で一步踏み込んでい る。「先生に言いましょう」、「おうちの人に言いましょう」とい うのが一般的だが、その場でできることを考えましょうという促し は、非常に重要なことだと考える。児童が、主体的にいじめをな くす関わりをする点で、よい取組だと思う。</p> <p>次に光文である。光文のよさは、実際に起こるような身近な題 材が取り上げられていることである。例えば、6年生では、学級の 生活の一部を取り上げ、身近な場面やありがちな問題を取り上げ てある。教科書の最後には「いじめのないクラスにするにはどん な心が大切か、考えましょう」という呼びかけがあった。ほかに も防災教育についての教材や、いじめの原因についてよく考える 教材もある。低学年の国語に、「みんなの力を合わせてまぐろをや つつける」という内容の教材「スイミー」があるが、「スイミー作 戦とガンジー作戦」は、いじめに対しても力を合わせて解決して いこうとするスイミー作戦と、平和を大事にしていじめに向かう というガンジー作戦の、2つの考えに立った道徳の教材もある。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>どの教科書も検定を経た教科書なので、その中で、どれが一番 熊本市の児童にとってふさわしいものなのか、ということだと思 う。しかし、どの教科書も完璧ではなく、100パーセントではない と思うが、日文に関しては何か留意する点はあるか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>日文に関しては、全体的にバランスがよいという印象を持って いる。しかし、主となる内容項目だけでなく、その他の副となる 内容項目も意識していかないといけない。例えば、生命尊重につ いては、高学年で2つの教材しか取り上げてないところがある。2 つしかないことで、生命の尊さを重点内容項目にした場合、物足</p>

	<p>りなさを感じてしまう。そのとき、他の教材にある副となる内容項目としての生命の尊さを意識して児童に指導すること、教師もその見方をもっていることが大切であると思う。もう 1 つ配慮が必要な点としては、熊本を取り上げた教材が日文にはないということである。そこは、『熊本の心』やその他の教材を使って補充していく必要があるかと考える。</p>
<p>森委員</p>	<p>時間の制約があり、10 観点を絞って説明していただき、分かりやすかったが、今日出てこなかった観点の中で、例えば、伝統文化や郷土についての観点についてはどうだったのか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>4 社で比較する。</p> <p>教出の伝統文化に関しては、低学年が国や郷土に親しむ、中・高学年では国や郷土を愛するという主題で設定されている。巻末にも補充教材がある。偉人、オリンピック、日本の技術など、多角的に伝統や文化が取り上げられている。「米百俵」では、明治維新の長岡藩におけるエピソードをもとに、日本の教育を尊重する考え方を取り上げてある。学習の手引きには、心情や考えを問うものがあり、日本のよさとして深めることができるであろう。発展的な調べ学習が多いように感じた。他の教材も主人公の行動や心情を問うものが多く、発展的に話し合い、調べ学習につなげていく問いが多いように感じた。</p> <p>日文では、各学年 2～3 つほど伝統や文化を取り上げてある。祭りや伝統など多方面において、日本のよさを考える教材が取り上げられ、美しく効果的な写真が使われている。「天下の名城をよみがえらせる」では、熊本市の児童が被災した熊本城と重ね併せ、思いをはせ、教材の導入部分と最後でふるさとの誇りについて考えることができると感じている。どの学年でも、導入部の問い、最後の問いに、「考えよう・見つめよう・生かそう」など、2 つ程度の発問がある。この発問はノートにもあるので、深めた考えを書くことによって、さらに確かな考えにすることができると思う。発問が一貫していて、日本の伝統と文化を問い、発達段階に応じて考えることができるようになっている。</p> <p>光文では、各学年で 2～4 程度取り上げられている。昔話、郷土の祭り、自然環境など多方面から伝統文化のよさを考えられるように工夫されている。6 年生「お茶のころ」では茶道を通じて「もてなす」という日本の文化を学ぶようになっている。題名の横に、主題についての問い、教材の最後に発問と話し合い活動がある。</p>

	<p>どの学年でも調べ学習につなげて発表しようという問いになっているが、道徳の授業の中で道徳的な見方・考え方を育てるような発問が若干少ないように感じた。</p> <p>最後にあかつきであるが、各学年に 1～2、この項目の教材がある。全体的に教材文が長く、「ヤリガンナ」は法隆寺の宮大工の西岡さんを題材に、伝統技術を守る生き方を通して日本の文化や伝統を学ぶものである。教材の後ろにある発問で教材を捉え、3 つほどの発問にしたがって学習を進めていくことができる。効果的な写真が掲載されている。学習の道筋にある発問とノートにある発問が少し違うため、児童が混乱しないような配慮が必要だと思う。</p>
<p>小屋松委員</p>	<p>教科書以外の教材や、先生方が適当だと思われるものを用いて授業をすることについて、担任の判断でできるのか。どの程度まで可能なのか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>内容項目は低・中・高で 19・20・22 とそれぞれ決められており、これを 35 時間の中に配列して年間指導計画を作っている。それぞれの学校は、学校教育目標、道徳の重点内容項目を照らし合わせ、学校行事等を配慮し、年間指導計画を立てていく。通常は教科書を基盤として作成していくが、教科書より適切なものがあったり、教科書では補えない内容項目がある場合には、熊本の郷土資料を用いたりすることが可能である。中には、児童の日記や作文を用いて授業を構成する先生もいる。35 時間、もれなく、内容項目が深まるように年間を通して実施していくことが大切と考える。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>道徳の教科化に関して、多くの声が寄せられている中で、懸念されていることは、「価値観の押し付けになるのではないか」ということではないかと思う。これに関しては、押し付けにならないように考え議論するという説明を受けたが、例えば、いじめはいけないというようなことは、なぜなのかを考え議論することがあっても、最終的には教えなければならない価値観である。しかし、「どういう友達がよい友達か」とか、「夢をもって生きるとはどういうことなのか」等については、答えがない。そこで、考え議論することには 2 つの懸念があって、教えなければならないことが教えられるのかという点と、本来それぞれ意見をもつべき事柄が議論によって、異論を許さないということにならないかという点である。教材というより教え方の問題なのかと思うが、価値観の押し付けにならないかということとも含めて、どうであるか。</p>

<p>梶尾研究員代表</p>	<p>道徳の課題は、答えが一つではない課題だと考える。その、答えが一つではない課題に、児童が自分達の経験を振り返りながら議論し、多面的に考えることが、問題解決的な学習であり、大変有効である。また、役割演技というような活動もある。いろんな立場に立って考えを発言することで、児童が思っている以上に考えが深まったり、よりよい考えを求めようとする姿勢が出てきたりすると考える。</p> <p>授業者は児童が出した考えを大切にすること、そして一つではない考えを児童に提示することで、自分自身の生き方にとって大切なことを考えることや、その術を知るということが道徳において大切にすべきところだと思う。そのためには授業者が価値観の押し付けにならないようにし、オープンエンドの問いもたくさんあるので、学習指導要領に位置づけられているねらいをもとに、教科書を使って、児童と共に授業をつくっていくことができると考えている。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>極端な話だが、みんなで話し合った結果、場合によってはいじめも許されるといった意見に引っ張られるような懸念はないか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>そうならないために教師がいる。「いじめはダメなのか」という素朴な意見を否定するわけではなく、その考えの根拠になるのは何なのか、どうしてそう思うのか、本当にそれでいいのかという問いを繰り返すことが大切である。そのようなことが、児童の道徳性を高めることになると考えている。未熟な考え、悪い考えが出てくるからいけない、ということではないと思う。また、そこを授業者が考えていけるような研修を、今後行っていかなければいけないと思った。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>そのような点で今回の教科書はどうだったのか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>非常に発問が考えられ、投げかけられていて、「おうちの人にも聞いてみましょう」「友達はどう考えているか聞いてみましょう」とあり、自分の考えに固執しないような授業の展開が期待できる。</p>
<p>遠藤教育長</p>	<p>日文の教科書についてということか。</p>
<p>梶尾研究員代表</p>	<p>そうである。</p>

平成 29 年 7 月 31 日（月） 臨時教育委員会会議録 小学校（道徳）

<p>遠藤教育長</p>	<p>他に意見はないか。なければ、以上で、本日の協議を終了する。 本日の協議を受けて、次回 8 月 7 日の臨時教育委員会会議にて採択を行う。</p> <p>以上で本日の日程は全て終了した。 これで、平成 29 年第 3 回臨時教育委員会会議を閉会する。</p>
--------------	---